

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700626		
法人名	有限会社坂元		
事業所名	グループホーム城山苑	ユニット名	西ユニット
所在地	宮崎県都城市山之口町山之口3940番地		
自己評価作成日	令和6年9月15日	評価結果市町村受理日	令和6年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自然に囲まれた環境の中で、自由にゆっくりと過ごせるように努め、季節感のある生活(お花見ドライブ・買い物・運動会・お祭り・ソーメン流し・焼肉大会など)を送ることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた環境の中にホームはある。自治会への加入、近隣の小学校や近隣住民との連携を図り、災害対策やホームの運営に取り組んでいる。理念とは別にスローガンがあり、毎年、見直しが行われている。笑顔を大切に「利用者目線」という考えのケアや季節ごとの行事を開催するほか、日常的に散歩や面会など家族や近隣住民との交流も見られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に、理念・スローガンの唱和を行い再確認し実践につなげている。年に一度、4月の全体会議で理念とスローガンの見直しを検討している。	年に1回職員全体での意見や外部の第三者からの意見を取り入れスローガンの見直しを行っている。「利用者目線」でケアの実践に取り組むほか、地域交流も理念に掲げられている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	好天時、近隣の散歩や季節毎のドライブ行事等で地域の方々と交流している。	天気の良い日の散歩の際には近隣住民と談笑が見られる。また地域の文化祭や運動会などの行事に参加し、日常的な地域住民との交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染予防対策継続中により、地域の方々との直接交流の場は設けていないが、運営推進会議や地域の方々の問い合わせ等で理解や支援に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し質問事項等は検討後、改善やサービスに活かす次回開催時に報告している。	行政、家族代表者、近隣の教育機関など多岐にわたる参加者によって開催。様々な意見交換を行い、ホームの運営にその意見を反映させている。家族にもその内容を報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告を行い、上記と同じく検討を行い都度報告している。	法人代表者を中心に市役所との連携を図り、ホームの運営等にその内容を反映させている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的委員会の開催や研修を行い意識をもって行動するよう心掛けている。利用者の状態によっては時間を決め出入口の施錠をしている。	新人の入職時、また年2回定期的に身体拘束に関する勉強会を実施。日常的な声掛けの表現など細かなところから身体拘束に関する意識が職員全体に周知されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングで勉強会を行い再確認、スキルアップに努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体ミーティングで勉強会を行い職員全員が理解出来るようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族へ契約時に書類に基づき説明を行い理解と同意を得ている。料金改正時などは文書にて説明、同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケートを取り意見・要望を聞いている。それ以外でも面会時に声掛けし意見・要望を聞き入れている。外部へは運営推進会議で報告している。		家族の来訪時や年1回のアンケートを基に家族から意見を聴取している。アンケート結果や運営推進会議の内容を家族に報告するなど家族とのやり取りに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の意見等は都度上司に伝えたり個人面談時に相談している。		日常的に職員が提案や意見が言える雰囲気がある。ケアに関する内容や施設行事、ホームの運営に関して意見交換を行い、業務やケアの実践にその意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を都度見直し、周知を行い、働きやすい環境整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づいて研修を行っている。外部の研修は可能な範囲で参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流・研修に、現地での交流及びオンラインでの参加にて、できるだけ参加している。			

自己	外部	項 目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の違いにより、不安や戸惑いや帰宅願望等が見られるも本人の話を傾聴し要望等を聞いて、職員間で情報を共有している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報を共有して本人が安心して家族の思いに添えるようにし、お互いに伝えあえる関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の健康・安心・安全を基本に考え、本人が一番必要としているサービスを家族と共に検討している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出勤時、一人ひとりの利用者にあいさつを交わしその日の表情や体調を見て状態を皆と共有している。個々の持つ力を引き出せるように接している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真と手紙を家族に送付し、状態報告を行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況に応じ制限を設けながら交流できるように対応している。		家族の協力をいただきながら、外出や面会を感染対策にも十分な配慮を行いながら取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格などを考慮し、話し相手となるような関係ができるように側に座って頂いている。			

自己	外部	項 目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談があった場合には、出来る限りの対応を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いを知ることは難しい面もあるが、声掛けし引き出せるように努めている。家族からの要望等も傾聴している。		毎日の利用者の様子や家族とのやり取りからその都度、意向の確認を行い、普段のケアに取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時・来苑時などに利用者様の様子を聞いて向き合うことをしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や精神面などその都度、関りながら気になった事を職員同士で共有し対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時には、現状報告・プラン変更し職員と共有しながら計画を実行している。		利用者の担当職員と計画作成者を中心にモニタリングを行い、その内容に関して全体ミーティングやユニットごとのカンファレンスで意見交換を行い、介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや様子を入力し連絡ノートに書き込み、職員が共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ家族・職員・看護師・主治医と連絡を取り合い情報を共有しサービスの多機能化に取り組んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部からパン屋さんに来ていただき、おやつや朝食などで提供し喜んでもらっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の往診と、変化が見られた時にはすぐに診てもらえる協力医がいる。		家族の意向に合わせ、主治医を決めている。受診時には家族の協力を頂き、受診を行っている。その他協力医の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時のバイタル測定を行い随時、体調に異変が見られる時には看護師に報告。看護師の指示にて行動をとっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り医師・看護師・ケースワーカーと連携をとり情報交換している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、説明と同意を得ている。体調の変化等でその時期を感じた時には、随時ご家族の意向を確認し、看護師・主治医・職員と連携を取り支援に取り組んでいる。		終末期に関する意向確認を書面で行い、定期的にその見直しを行っている。本人や家族の状況や意向に合わせ、看取りを含めた医療面での支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡・連携について勉強会で訓練している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害や夜間想定 of 初期対応訓練を行っている。		近隣からの協力・連携(教育機関・消防団)を図りながら、地震・火災・夜間想定 of 避難訓練に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように言葉かけに心掛けている。		利用者目線での声掛け、対応を常に意識している。尊厳にも注視し呼称を決めている。身体に触れる介助の面でも同性介助など丁寧かつ配慮を行うケアの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思や表情等から思いをくみ取り、傾聴に心掛け寄り添っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、一人ひとりに応じた一日をどう過ごしたいか本人のペースを大切にし、希望に添って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にできるだけ寄り添い、清潔感のある身だしなみの支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食前・食後のテーブル拭きやお盆拭きをして頂いている。		ホームでお米、野菜、みそなどを作っており、普段の食事に活用している。利用者個々の能力に応じて食後の片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食べやすい形状や食器の種類を選び提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて見守り、できない部分に関しては支援していくよう努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けをトイレでの排泄を支援している。		利用者の排泄状況を細かく把握すること以外にも内服内容なども確認を行いながら排泄パターンを確認。リハビリパンツやパットを使用しない生活への移行に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者には、牛乳やヨーグルト等を摂って頂き排便を促している。往診時に医師の指示に基づき便秘薬を調整し排便コントロールを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日は決まっているが、本人の体調や希望によって別の日に変更したり、足浴・清拭など行っている。		週3回、午後から入浴をしている。個々の希望に合わせ、ゆっくりと入浴ができるように取り組んでいる。ゆず湯などの楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、休憩したり安心して過ごせるように声掛けや見守りを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、職員同士での二重・三重のチェックをしている。日々の状態変化の観察に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事の役割を持ってもらい実施している。洗濯たみ・テーブル拭き・お盆拭き・食事時の挨拶など。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩をして季節を感じて頂いている。外出や行事などは感染状況によって実施している。		日常的に職員や家族と近隣の散歩を行うほか、季節に合わせた行事を取り入れドライブなどを企画し生活の充実を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして一万円程度を預かり、各個人の出納帳を作り管理している。収支については家族に確認・サインをもらっている。月一回のパン販売にて使っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月一回の手紙と最近の写真を同封し、家族への近況報告している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やホールから外の四季折々の風景が見渡せ季節を感じる事ができる。会話が弾み心地よく過ごせる。小学生の作品には癒されている様子がある。		季節が感じられる雰囲気づくりを行うほか、転倒リスクに十分に配慮した共有空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で話される時には、椅子を準備したりソファに誘導したりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の物を持って来られ飾ったりされている。(家族の写真・趣味の物など)		日常的になれた家財の持ち込みを含め、壁紙など落ち着きやすい雰囲気づくりに注力し、居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、個人の名前(家族の同意あり)トイレ、お風呂場などの場所を記すものなど表示している。			